

生駒市立病院管理運営協議会第2回会議会議録

■ 日 時 令和元年11月28日(木)午後8時00分から午後9時30分

■ 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

(1) 会 員 小紫 雅史、遠藤 清、城谷 学、山上 正仁、前野 見依子、佐野 いづみ、森岡 文夫、藤澤 清二、下山 悟志

(2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、影林福祉健康部長、田中福祉健康部次長、石田地域医療課長、桐坂地域医療課長補佐、伊藤地域医療課主幹、奥野病院事業推進係主査

【指定管理者】岸田事務部長、吉松総務課長、辻川看護部長

■ 傍聴者数 5名

■ 会議の公開・非公開の別 公開

■ 会議の内容

1 開会

【事務局(市)】 それでは定刻になりましたので、ただいまから「令和元年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議」を開催いたします。

本日は、過半数の会員にご出席いただいておりますので、「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第7条の規定により、本会議は公開としております。

それでは、次に、本日の配付資料について確認させていただく前に、皆様にお伝えしなければならないことがございます。平成27年度の第1期から、長きにわたり本協議会会員としてご尽力いただきました成田研二様が去る8月16日にご逝去されました。成田様への感謝と哀悼の意を表しまして黙祷をさせていただきたく存じます。皆様、ご起立をよろしく願いたします。

(黙 祷)

【事務局(市)】 ありがとうございます。ご着席ください。

2 会議内容の確認

【事務局(市)】 本日の会議におきましては、令和元年度上半期の実績についての実施状況調査を行い中間報告書として整理しました。会員の皆様からご意見等をいただきまして、次年度の事業計画に反映させていただくこととなりますので、よろしく願いたします。

本日の配付資料について確認させていただきます。

1. 会議次第、2. 令和元年度生駒市立病院中間報告書の2点になります。

全ておそろいでしょうか。

3 案件

【事務局(市)】 それでは、以後の進行につきましては、要綱第6条第1項の規定により、会長が議長となりますので、小紫市長、よろしく願いたします。

【小紫会長】 皆様、改めましてこんばんは。本日は会員の皆様にはお集まりをいただきましたことを心から感謝を申し上げます。この管理運営協議会が始まって以降、さまざまなご意見をいただいております成田会員が8月にお亡くなりになられたということで大変悲しみを禁じ得ないところでございます。地域医療を育てる会、そしてさまざまなご知見をこの場でも出していただき、まさに管理運営協議会のあるべき姿を体現していただいた功労者の一人でございます。成田会員のご冥福を心からお祈りを申し上げますとともに、いただいたご遺志をしっかりと市立病院の運営に活かしていくことを心からお誓い申し上げたいと思っております。

さて本日でございますが、上半期の実績、そしてさまざまな課題と、逆に進捗したこと等の整理を報告書としてまとめていただいておりますので、ご意見、ご質問等をいただき、意見を反映して来年度の計画をつくっていくということでございます。また後ほど詳細につきましては事務局からの説明もございますが、外来患者は計画どおりに推移をしており、入院患者は本年度からHCUを1床増床していただいたり、210床のフルオープンをしていただいておりますけれども、まだ計画値から少し乖離があるというような課題がございます。

一方で、前回会議でもお話がございましたように、看護基準の10対1から7対1への移行というような見通し、またDPC病院になるような医療の質の向上ということで、非常に前向きに取り組んでいただいている部分と、まだこれからという課題の両方が混在しているのかなと思っておりますので、是非忌憚ないご意見をいただきまして、来年度の計画、そしてまた下半期の病院運営のほうにしっかりと生かしていきたいと思っております。本日もよろしく願いをいたします。

本日の議題は「令和元年度生駒市立中間報告書について」ということでございますので、事務局から説明を受けた後、項目ごとに意見交換、ご質問をいただくことにします。

それでは、事務局から、お配りをしております資料「中間報告書（案）」に基づいての説明をよろしく願いいたします。

【事務局(市)】 それでは令和元年度生駒市立病院中間報告書についてご説明申し上げますので、ご準備願います。

様式につきましては従来どおりでございますが、一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順に年度事業計画、中間報告、中間報告の補足説明、右端が取組の評価・課題の欄となっております。

この資料の中間報告・補足説明の欄につきましては病院から、取組の評価・課題の欄につきましては生駒市から説明させていただきます。

それでは、病院から説明をお願いいたします。

【事務局(指定管理者)】 中間報告についてご説明をさせていただきます。

まず、1ページ目の「診療科目」でございます。

計画どおり診療科目につきましては、16診療科でございます。補足説明欄にありますように、皮膚科、内科及び整形外科については育児休業等診療に影響を及ぼす事案がございましたので記載させていただいております。また、専門外来につきましては下肢静脈瘤外来を新たに開設し、診療の幅を広げました。

次に、2ページの「病床数」は、令和元年7月からHCUを1床増やしまして8床に増床し、今年度9月末までのHCUの病床利用率につきましては78%となっております。

ります。

次に、3ページの「人員体制」でございます。

9月末現在の医師は常勤換算で23.5名、うち常勤医師は補足説明欄にありますように18名となっております。常勤医師に関しては、勤務希望者の募集により救急科1名及び内科1名を確保いたしました。また、看護師は133.6名、その他といたしましては薬剤師、理学療法士等を合わせ123.9名、合計280.9名となっております。

4ページの「患者数」につきまして、上半期の入院患者数につきましては1日平均126.8名、外来患者数は1日平均209.1名となっております。補足説明欄の外来診療科別患者数の表の下の参考で記載しておりますとおり、年度計画の上半期と比較しますと、入院患者数は82.2%、外来患者数は93.8%の達成率となっております。また、患者数の前年度中間期との比較でございますが、診療科別で多少の増減はありますが、合計しますと、補足説明欄にありますように、入院では平均6.9人の増、外来では8.0人の増となっております。

5ページ「質の高い医療の提供」でございます。

手術件数は、全科目の合計で656件となり、前年度中間期と比べ11件の増となっております。

また、分娩件数につきましては80件であり、前年と比べ3件増加しております。

次に、6ページをお願いいたします。

いわゆる、主要疾病4疾病でございますが、がんにつきましては、地域がん診療連携拠点病院との連携のもと治療体制を確保しております。脳卒中につきましては、近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センターとの連携のもと、早期に検査・診断・治療できる体制を確保しております。また、急性心筋梗塞につきましては、緊急心臓カテーテル検査、PCIが常時可能な体制を確保しております。糖尿病につきましては、かかりつけ医との連携のもと慢性合併症等の治療を実施しております。

また、患者満足度の向上のためにグループ全体で入院・外来患者アンケート調査を実施いたしまして、補足説明欄記載のとおり調査結果が出ております。

そして、ご意見箱でいただきました患者様からのご意見につきましては、補足説明欄に記載しておりますとおり温かいお言葉をいただいております。また、ご指摘いただきました至らない部分につきましては、回答を記載させていただいておりますが、迅速に対応させていただいております。

7ページの「医療における安全管理に対する取組」では、医療安全管理委員会及び医療安全カンファレンス、また院内感染対策委員会、ICT合同カンファレンス及びICTラウンドについては計画どおり実施いたしました。さらに医療安全勉強会及び感染勉強会につきましては、複数回開催いたしました。

また、院内感染対策に係る地域医療連携として、奈良県総合医療センターにおいて開催されました合同カンファレンスに市内等病院とともに2回参加しております。

以上のような取り組みにより、医療事故発生に備え、日常から迅速・的確に対応できる体制の整備や継続的な院内感染防止活動に取り組みました。

次に、8ページの「地域完結型の医療提供体制の構築への寄与」について、在宅支援機能の充実として、医療連携登録医は9月末時点で67施設となっております。そのうち市内クリニックが30施設で、これは市内全クリニックの34%になります。また、協力医療機関連携施設は9月末時点では59施設で、前年と比べ5施設増加しております。

また、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会の委員としまして院長、在宅医療介

護推進部会及び入院調整マニュアル運用グループの委員として地域医療連携室の職員が参加しました。

また、医療教育プログラムにつきましては、6月に新生児蘇生法講習会(NCPR)、9月に医療メディエーター研修が開催され、合わせて48名が参加いたしました。

次に、9ページをご覧ください。

「周辺の他の医療機関との連携」は、医療機器のオープン利用として周辺の医療機関に市立病院のMRIやCTなどを利用していただいております。利用件数は、MRIが143件、CTが59件、内視鏡が7件、エコーが5件の実績となっております。

次に、紹介、逆紹介についてであります。紹介率は33.7%、逆紹介率は14.7%、また補足説明欄にありますように、市立病院が市内医療機関から紹介を受けた割合である市立病院利用率は67.8%となっております。

また、「やまと西和ネット」に参加して、本年10月から実際に運用を開始しています。

10ページの「救急医療の充実」について、救急受入件数が806件、救急応需率は97.7%となっております。

補足説明欄ですが、救急車以外で当直時間に来られた患者さまについてはウォークインとして集計しており、月平均197.2名となっております。

また、市内内科系二次、外科系一次二次輪番体制については、参加に向け市内受入率の向上を目指しており、補足説明欄にありますように45%のバックアップ率となっております。

11ページの「救急に対する人員体制」につきましては、1名の時間外担当医と1名の常勤当直医の2名体制となっております。専門医によるオンコール体制をとるとともに、外来看護師2名のほか、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員それぞれ1名の当直体制をとりました。

また、休日夜間の診療レベルは、CTやMRI、X線、血液検査、全て対応可能となっております。加えて、心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術も対応可能な体制を整えております。

12ページをご覧ください。

「小児医療の充実」では、常勤医師2名体制を目指し、在籍している1名に加え、もう1名の確保に努めている現状でございますので、現在、北和小児科二次輪番体制への参加はできておりません。

次に、「災害時医療の確保」では、5月10日に市主催の防災行政無線通信訓練に参加をし、また6月19日には初期消火訓練を初めとする消防訓練を実施いたしました。25名の病院スタッフが参加いたしました。

次に、「予防医療の啓発」は、疾病予防機能の強化として、市民の疾病予防を目的とした医療講演会を28講座開催し728名の参加がありました。また、各種健診につきましては、補足説明欄に記載しておりますように3,135件となっており、前年度と比べまして654件増加しております。

次に、13ページの「市民参加による運営」でございます。

市民交流事業につきましては、6月16日に健康フェスティバルを開催し、約500名にご参加いただきました。

次に、「環境に配慮した運営」では、市の環境マネジメントシステムの取り組みとして、資源ごみの分別収集を強化するとともに、院内での省エネルギー化に努めてまいりました。

また、院内保育所につきましては、保育児童者数1日平均9名、24時間保育運営

日数は24日、休日保育運営日数は34日となっています。

最後に、14ページの令和元年度上半期の収支についてご説明いたします。

医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、計画の7,654万6,000円に対してマイナス5,644万1,000円であり、計画に対して1億3,298万7,000円のマイナスになっております。

医業利益からその他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きました経常利益につきましては、計画のマイナス5,561万1,000円に対してマイナス1億8,500万2,000円であり、計画に対して1億2,939万1,000円のマイナスとなっております。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いたします。

【事務局(市)】 それでは続きまして、取組の評価・課題につきましてご説明申し上げます。

それでは、1ページに戻っていただきたいと存じます。

「診療科目」でございます。

「専門外来」につきましては、評価として、上から3項目目でございますが、「形成外科の専門外来、乳腺・甲状腺外来等の受診者数が増加しており、市民ニーズに対応できている」、また「下肢静脈瘤外来を開設するなど質の高い医療の提供を目指し、専門的な診療・治療を行う専門外来の機能が充実してきている」ことを挙げさせていただいております。

課題といたしましては、「今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指し、さらに専門外来の充実を図る必要がある」としてございます。

次に、2ページ「病床数」では、評価といたしまして、「HCUを1床増床させたことにより、重症患者及び術後患者の増加に備え、治療体制の充実が図られている」としております。

課題といたしましては、前回に引き続き「病床利用率を向上させるためにも、不足する診療科の常勤医師の確保並びに病病連携及び病診連携をより一層進める必要がある」とさせていただいており、「また、小児科の救急医療、入院医療体制の構築のため、小児科常勤医師の増員を図る必要がある」ことを挙げさせていただいております。

3ページの「人員体制」は、評価といたしましては、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、作業療法士及び医師事務作業補助者をそれぞれ増員したことを挙げており、課題といたしまして、「二次救急医療を充実させるため、引き続き不足する脳神経外科、産婦人科、小児科の常勤医師の確保・増員を行う必要がある。また、前年度よりも外来患者数が減少傾向にある消化器内科、整形外科、皮膚科などについては、常勤医師を確保・増員するまでの間、病病連携・病診連携や非常勤医師の確保・増員により、外来診療体制の維持に努める必要がある」としてございます。

4ページをお願いいたします。

「患者数」の評価といたしまして上から3項目目でございますが、「病院だよりの定期的な発行をはじめ、広報活動の取り組みの強化など市民への周知の取組の強化が進められている」としております。また、「地域の医療機関への情報提供等訪問回数が増加しており、地域の医療機関への周知の取り組みが強化されている」としております。

課題といたしまして、「今後、常勤医師の長期休業取得に際しては、病病連携等の充実や非常勤医師の確保などにより、診療体制の維持に努める必要がある」としてご

ざいます。

5 ページの「質の高い医療の提供」につきまして、評価として、「助産師の充実、産後のサポートなど安心して出産できる体制が整っており、第1子出産後、2子目と続けて出産される利用者が増えている。さらに、外国語に対応できる助産師を配置していることで、外国人の出産等にも対応できている」としてございます。

さらに、「質の高い医療提供、医療の効率化、透明化を実現するため、来年度のDPC導入に向けて準備を進めている」としております。

課題といたしましては、「低侵襲な手術等の充実を図るため、ダ・ヴィンチ手術の技術認定医をグループ病院から招致し、当院で対応可能な症例範囲を増やす必要がある」としてございます。

6 ページの「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」及び「糖尿病」につきましては、十分な連携がとれていることを評価させていただいております。

また、評価の上から5項目目ですが、「入院患者アンケートにおいて、前回調査や他病院と比べて特に評価が高かったのは、医師及び看護職員の診察内容等、院内の雰囲気、清掃状況などの各項目であった」ことを評価させていただいております。

また、「アンケートの実施及びご意見箱の設置により、患者や利用者の声に耳を傾け、迅速に対応することで、市民満足度の向上につなげていく仕組みができています」ことを評価とさせていただきます。

一方、外来患者アンケート結果については、課題といたしまして、「外来患者アンケートにおいて、医師の診察内容等は、前回調査や他病院と比べて評価が高かったものの待ち時間への配慮などにおいて評価が低かったことから、今後、待ち時間短縮に向け取り組む必要がある」とさせていただき、また「ご意見箱に頂いたご意見やよくある質問及び患者アンケートの集計結果については、ホームページや病院だより等での掲載内容をさらに充実したものにする必要がある」ことも課題とさせていただきます。

7 ページの「医療安全管理に対する取組」につきましては、評価として「院内感染対策に係る地域医療連携として、市内他病院を中心とする合同カンファレンスに参加し、地域医療連携を強化している」とさせていただき、さらに「医療安全勉強会及び感染勉強会については、同一内容の勉強会を複数回開催しており、できるだけ全職員が受講できるように努めている」ことを評価させていただいております。

課題としましては、「外来での感染症患者の見極めや院内感染の防止等、全病院職員へのマニュアルの周知徹底を図る必要がある」としてございます。

8 ページをお願いいたします。

「地域完結型の医療体制構築への寄与について」は、評価といたしましては、1項目目でございますが、「在宅患者の増悪時の受入れなど、在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院の役割を果すため、市立病院と地域の医療機関等との連携が進められている」としております。

また、3項目目でございますが、「退院支援チームの活動や入退院調整マニュアルの積極的な活用により、退院後も切れ目のないケアを提供できている」としております。

課題といたしまして、1項目目でございますが、「在宅支援機能をさらに充実させるためには、市内の医療連携登録医を増やしていくことで、地域の医療機関との連携強化を図る必要がある」としております。

また、課題の2項目目は、前回に引き続き「地域医療機関を対象にした医療教育プログラムなど、対象者が広範囲なプログラム等の提供を検討する必要がある」として

おります。

さらに病診連携懇話会につきましては、「医療連携登録医をはじめとした市内の診療所の医師を対象とした症例検討会、市立病院への紹介件数や機器の共同利用実績の報告などの内容を検討し、来年度の開催に向けて準備を進める必要がある」としてございます。

9 ページの「周辺の他の医療機関との連携」につきましては、評価といたしまして、1 項目目でございますが、「CT のオープン利用件数が増加するなど、市立病院の医療機器を地域の診療所等が利用することにより、医療連携が推進されている」。また、3 項目目に「入退院支援加算件数が増加しており、退院困難患者の早期抽出、入院早期の患者・家族との面談、多職種連携カンファレンスを実施するなど、入院早期から退院後の生活を見据えた医療と介護の切れ目のない支援が推進されている」。さらに4 項目目に、「地域の医療機関への情報提供等訪問回数が大幅に増加しており、地域の医療機関への周知の取り組みが強化されている」ことをそれぞれ評価に挙げさせていただきます。

課題といたしまして、前回に引き続き、「地域医療機関との病病・病診連携の推進及び紹介患者の増加のためには、医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応していく必要がある。また、患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡の徹底に加え、紹介を受けた患者以外でも、病院での治療を終え症状が落ち着いたら、必要に応じて地域の診療所により一層逆紹介を進めていく必要がある」。

また、2 項目といたしまして、「地域医療連携室の専任職員による地元医療機関のニーズの把握及び市立病院の診療機能についての情報提供を充実させて、地域医療機関との連携体制をより一層強化する必要がある」としてございます。

10 ページ、「救急医療の充実」でございます。

評価としまして、「救急科の常勤医師を確保したことにより、救急医療体制がさらに充実し、救急応需率が上昇した」としております。

また、課題としまして、前回に引き続き「市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現していく必要がある。北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、小児科の常勤医師の確保のため引き続き努力が必要である」としてございます。

続きまして、11 ページ、「救急に対する人員体制」でございます。

評価としまして、「当直可能な医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の24時間365日の救急受入体制が維持されている」としてございます。

課題としましては、前回に引き続き「当直・オンコール体制に参加できる脳神経外科の確保及び整形外科の常勤医師の増員に努める必要がある」としてございます。

12 ページをお願いいたします。

「小児医療の充実」の評価といたしまして、「産婦人科と連携し、出生児の診察や1ヶ月健診を担当し、安心して出産できる体制を構築している」としてございます。

引き続き課題といたしまして、「小児二次医療の充実や小児救急の実施に向け、引き続き常勤医師の確保に努める必要がある」としてございます。

その下の段の「災害時医療の確保」につきましては、評価としまして、2 項目目でございますが、「大規模災害時の医療救護にかかる防災行政無線の通信訓練に参加するなど、市医師会災害対策本部を中心とする市内救護病院との情報共有・連携体制の構築に努めた」としてございます。

課題といたしましては、防災訓練を下半期に予定していることから、「災害対策マ

ニュアルに則り、医師、看護師など現場スタッフや地元自治会関係者が参加する防災訓練を引き続き実施する必要がある」としてございます。

その下の段の「予防医療の啓発」につきましては、評価として、「医師や薬剤師等による予防医療の啓発に向けた医療講演会が、目標を上回る回数で開催された」としております。

課題といたしましては、引き続き「市民の健康づくりや疾病予防を促進するためには、院内の講演会の充実に加え、自治会や学校、企業、各種団体・グループ等広く地域社会に出向いていく出前講座の拡充が必要である。また、市民健診においては、待ち時間の短縮を図り、円滑な受診体制の整備を検討する必要がある」としております。

13ページの「市民参加による運営」につきましては、6ページでも一部ご説明いたしましたでしたが、評価として、「入院・外来患者アンケートの実施により、外来・入院患者の病院への評価・満足度を、前回調査、グループ病院との比較の中で相対的に把握することができている。また、総合評価だけでなく、治療内容、職員対応・サービスなどのソフト面や設備・環境などのハード面に加え、診療科、病棟ごとの個別評価をしている」としてございます。

課題といたしましては、「入院・外来患者アンケート調査結果を精査し、評価・満足度の高い項目は、さらに向上を目指し、また評価・満足度の低い項目は、原因を分析し、課題の抽出、改善策の検討を行い、具体的に次年度以降の計画に反映させる必要がある」としてございます。

その下の段の「環境に配慮した運営」につきましては、前回と同様の評価となっております。

最後の段の「院内保育所」に係る課題といたしまして、「医療従事者が引き続き働きやすい職場環境を整え、離職者の減少、新規雇用に繋げていくことが重要である」としてございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【小紫会長】 それでは、先ほど申し上げたとおり項目ごとにご質問、ご意見を伺っていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

1ページ目の診療科目につきまして、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

はい、佐野会員どうぞ。

【佐野会員】 市立病院の特色としてフットケア外来というのも特徴的な外来だと思います。そちらで今何か看護師さんとかフットケアの講座の受講とかされているようで、そういうのを推し進めていかれてもいいのかなと。例えば、アロマオイルを使われるとか、何かいろいろ方法があると思いますが、ほかの科もそうかもしれないですけど、その外来の特徴的なところをもっと伸ばせるような何か施策をされたらどうかと思います。

【遠藤副会長】 うちはどんどんやりたいことを言っていたくように各科の先生に言って、大きな機器が要るところは難しいですけど、例えばフットケア外来だったり、レーザー外来も大分充実して、購入する機器がないぐらい導入していますので、今のご意見は本当に全科の先生に言っています。どんどん拡充していくと思います。

【佐野会員】 フットケア外来のそのフットケアの受講者というのが、実は看護師だけじゃなくて臨床検査技師さんとか義肢装具士さんとか、ほかの科の方でも医療に従

事していたら資格が取れるそうです。なので、何かそういうのをもっともっと、資格取ってらっしゃる方の給料を上げるとか何か方策をつくられたどうかと思います。

【遠藤副会長】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ほかにこの1ページ目で何かございますか。

はい、城谷会員お願いします。

【城谷会員】 乳腺外来がすばらしいことを言っておられて外科の先生は大変だなと思うのですが、この成果というのは、いわゆる一次検診なのか、紹介なのか、どういう努力をなさったのか。マンモグラフィとか乳腺エコーとかを拡充なさっているのではないかと思うのですけれども、いかがですか。

【遠藤副会長】 乳腺・甲状腺外来という名前になっているところがみそになっているのかもしれませんが。全てが乳腺ではなくて、結構、甲状腺は、私は以前に勤務していました阪奈中央病院の時からやっているのですが、甲状腺は、ドックの医師とか、または外来の医師に、例えば胸部のCTを撮るときに甲状腺から撮ってくださいと技師に言うのです。そうすると、結構いろいろ引っかかかってきて、それで甲状腺でほとんどの医師、血液検査してもエコーはしないものですから、見つかる则ち送ってくるので、乳腺もありますけど半分は甲状腺外来であったりということなので、今の先生のお言葉でいきますと、ドックからも上がってきますし、外来の医師の啓蒙がちょっとうまくいき出したかなというところがありますので、乳腺も一次検診というよりは、ほかで見つかって精査でという人、二次検診で来ている人も結構増えてはきているようです。

【城谷会員】 遠藤院長のおっしゃるとおりで、実は循環器でも胸の、例えば動脈瘤でCTをとると甲状腺に引っかかる人はすごく多いです。外科の先生の活躍する場はそういうところにもあるのかなと思います。

【小紫会長】 ほかに1ページ目よろしいでしょうか。

2ページ目の病床数につきましていかがでしょうか。ご質問等ございませんでしょうか。

それでは、3ページ目の人員体制で、何かご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、下山会員。

【下山会員】 前回の第1回会議のときも同じような人員が不足しているというお話が出たのですが、具体的に今後採用に向けて活動されていかれるのか。同じような採用活動ではなかなか増えていかないと思いますので、今後改善していこうという何か具体策があればと思ひまして、お聞きさせていただきたいと思ひます。

【遠藤副会長】 全ての原因のものが、やはり医師不足というか、診療科に常勤医師がいないことです。脳神経外科であったり、通常の動きとしては、昨年もお話させていただいたと思ひますが、大学を訪問したり、人材派遣会社に依頼することも行っています。大学のほうも、奈良県立医科大学も行きますけれども、それ以外に大阪及び

兵庫まで足を延ばせば私立の大学もたくさんありますので、そういうところも今どんどん行っている段階です。ただ、これだけでは生駒市立病院に来る医師を確保できないということで、今、各先生方であったり、人づてということで一生懸命やっています。何百人というところに話が行って1人という形でもいいかなと思っています。手当たり次第ということはよくないですけども、来年に向けては、そこが解決しない限りは病床数に対しての患者数や計画に対して今まだ十分達していないことの全ての根源がここにあると思いますので、そういうことを今考えています。

【下山会員】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ほかにございますか。
では森岡会員どうぞ。

【森岡会員】 今おっしゃっていた部分で、一般の医療体制として医師の充実というのが非常に急がれるのが1つと、もう1点は、やはり市立病院という意味での二次救急医療だとか、いろんなバックアップ的な面も含めるとさらに医師の充実というのが求められると思うのです。そういう意味では、特別な考え方が一つは必要ではないかなと。普通に考えていたら、今、院長先生がおっしゃっていたように、どこでも充実させるのは難しい状況なわけですから、そういう中で市立病院としての役割を果たすという意味で言えば、さらにもう一段増やしたいとか、それだけではとどまらないということに本来はなるわけですね。特別な病院の体制を考えるとかということを含めて全般的に検討していく必要があるのではないかと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。まさに二次輪番とか、病院事業計画の中でもそういうことを期待されている病院であるわけですから、病院の運営にプラスアルファでそういう公共的な部分も含めてしっかりとやっていかなければならないというご意見、そのとおりかと思えます。

今おっしゃったように、今までのやり方プラス人づて、人間同士のおつき合いというところでの対応、全ての根本ということでございますのでしっかり頑張ってもらいたいと思います。

それでは、ほかの人員体制のところ、よろしいですか。

それでは4ページ目、患者数のところいかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、5ページから7ページまでの質の高い医療の提供ということでご質問、ご意見はありますでしょうか。

では、佐野会員。

【佐野会員】 6ページ目に、前回のアンケートで待ち時間が長かったということがあります。市立病院にはありませんが、最近、病院にカフェを併設されるところがとて多くなっています。もしかしたら場所を確保するのが難しいかもしれないですけど、例えば持って帰れるコーヒーとかを待ち時間にそれを飲んでもらって気分を変えられるとか、図書館みたいにちょっと雑誌や本を置いてそれを読んでもらう、その場所には電光掲示板があつてご自分の呼ばれる番号が出るとか、会計の番号が出るとか、そういう何か工夫とかはどうかと思いました。

【遠藤副会長】 最近はすごくいろんな方法があるようで、今言われたようなカフェ

も。ただ、診療前に口にしてはいけない方もいるので、我慢している人がいて、こちらでは飲んでいての方がいると少し課題があるかもしれません。図書室とかは多くの病院が持っています。あとは、スマホがかなり普及しているので、ご自宅で受診予約ができる。ご自宅で順番をとって、その時間になったら行くという。私の家族が経験していきまして、進んでいるなと思います。いろんな取り組みをしていきたいなと思っています。

ただ、変えようとする、どこら辺をずっとやったらいいのかとか、あと、やはり来ないと分からない場面というか、もしかしたら手術になるかもしれない方たちがスマホで順番をとってご自宅で待っている間に悪くなってしまっても困りますので、その辺は先ほどもありました待ち時間の中でも、実は待ち時間という順番に診ているようですが、外来のスタッフは患者様を診て、重症の人は先に回したりするというのは、やはり来ているからできることですので、その辺は難しいのかなという気がします。

さっきの図書室はやりたいと思っています。ただ、スペースが意外にないのですね、病院というのは。ですから、そこら辺をどうするかはまた課題だと思います。貴重な意見ありがとうございます。

【小紫会長】 待合室に雑誌が置いてありますよね。それをさらに一歩進めてということですね。分かりました。

山上先生お願いします。

【山上会員】 助産師が外国語に対応できるということで非常に心強いですけど、何語に対応していただけるかというのを伺いたいのと、外来診察でも外国人への対応というのができるのかというのをちょっと伺えますか。

今、奈良県もインバウンドでたくさん外国人の方が来られる。生駒は余り来られないかもしれないですけど、もし来られて対応できたらお願いしたいなと思いますので、参考にお伺いしたいと思います。

【事務局(指定管理者)】 助産師が対応できるのが英語とスペイン語です。

【遠藤副会長】 奈良先端科学技術大学院大学がありますので、結構外国の方が多いのですね。その人たちがよくうちに来ているようです。

【小紫会長】 外来はどうですか。医師が話すケースとか、看護師が話すケースとか、事務職員が話すケースとかで少し変わるかもしれませんが、今、奈良は外国人の方がすごく増えています。生駒市はそんなに多くないですけど、外国の方が多いのと、あと先端大は院長がおっしゃったとおり、生駒市は1,000人ぐらい外国人がいて、数的には多いわけではないのですが、出身国の数がすごく多いという特徴があります。そういう意味では多様性に富んでいます。すべての言語対応は難しいところだということで、基本は英語になってしまうのですが、英語が分からない方もいらっしゃるのでも市立病院である程度対応ができるようになれば各診療所との連携というか、何かあったときにバックアップできるというのはあるかもしれません。

ほかにはいかがでしょうか。はい、森岡会員。

【森岡会員】 いろんな人に市立病院について感想を聞いたりしているのですが、け

がをして救急で市立病院に運ばれてきて、退院したのですが、1週間後に、「いかがですか」と予後について病院から電話がかかってきたということで非常に感激をしたという方がおられました。患者との対応の仕方一つで大きく変わってくると思います。もう1点は、どちらかという悪いほうですけども、待たされるということです。当初「待たされないからいい」と。いわゆる、まだ開院して時間が短いですから、患者数が少ないときは「すぐ診てもらえた」、そういういい評判がたっていたのですが、同じ方が、「最近待たされる」と。

そういう意味でいうと、初めから待ち時間がかかる病院はいいですけど、最初よかったなというところで待たされるとなると、倍になってくるというか。待たされると言ったらおかしいですけど、やっぱりそこに合理性というか、納得して待ってもらえるような、対応の仕方一つで大きく変わってくるということで、事例としてそういう話があったということで報告をしておきたいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。
それでは、前野会員お願いします。

【前野会員】 ダ・ヴィンチの手術についてお尋ねします。奈良県下でこの医療機器を持っている病院がとても少ないと聞いておまして、これは大きな売りかなと思うのですが、できましたら開始時点からのダ・ヴィンチの延べ手術数であるとか、多分メンテナンス料もたくさんかかるかなと思いますので、その辺の収支状況を、余り詳しくなくていいですので、質問でお答えいただける場所をお願いします。

【事務局(指定管理者)】 奈良県内でダ・ヴィンチを整備されている病院は県立医科大学附属病院、県総合医療センターと天理よろづ相談所病院と当院の4カ所です。

保守料ですが、市立病院のSiというダ・ヴィンチについては年間720万円の保守費用がかかります。開院以来の件数は50件ないぐらいだと思います。そんなに多くはありません。

【前野会員】 この機器を使うのにはすごく練習も要すると思うのですが、徳洲会のグループ病院とかで人材を何日間かお借りして、是非この機器が有効に利用できるように進めていただけたらと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか、それでは、8ページと9ページ、地域完結型の医療体制構築というところです。この2ページに関して、何かございますか。

森岡会員どうぞ。

【森岡会員】 以前、遠藤院長もおっしゃっていたように、市立病院の立地的な問題。通勤・通学途上に電車内で具合が悪くなったと。そういう状況で言えば、降りてすぐ病院へ行けるという、条件もあるわけですね。地勢的なものも含めておっしゃっていたと思うのです。生駒市民だけでなく、いろんな形の使われ方があり得ると思います。それを統計的に見える形でとっておく必要があると。よい面・悪い面をどういうように分析していくか、おっしゃっていたような計画をどう進めていくか、そういうことにもつながってくると思います。例えば、市立病院は近鉄沿線のすぐ近くに立地しているわけですから、そういう中で生駒市立病院からどういう患者が出ているのか、

増やすべきなのか、増やすためにはどうしたらいいか、そういうような対策も含めてとるためには一定の分析が必要ではないかなと。

あわせて、来年度生駒市では総合防災訓練を計画されています。もちろん生駒市内の病院全てですけれども、市立病院としての果たすべき役割、今言うこの駅前という立地。もし東南海地震等であれば、大阪から逃げてきて具合が悪ければすぐここで入院加療ということも起こり得るわけです。今までも全国各地の被害の中で最寄りのところで治療を受けると。そういう患者に対応するということも出てくる。先ほど言った東生駒駅前に立地しているという病院という意味がどういうものなのかというのを、もう少し日ごろから分析を深めてもらって、ちょっと見える形にさせていただければありがたいと思います。

【遠藤副会長】 それは本当にいつも思っていることです。駅が近いと電車しか目に見えないですけど、バスもターミナルでかなりいろんなところから来ています。もしかしたらすごく広範囲の人がここに集まってきているのではないかなということを見ると、9ページにある医療機器のオープン利用の件数が、多くはないのですね。例えば、地域の診療所の先生が、自分のところに通っておられる方が、例えばここは24時間検査できる体制をとっていらっしゃるので、来年かは分かりませんが、夜間でもそういう予約をとるような形ができれば、通勤の帰りにMRIを撮って、そのデータだけその先生に送って、診てもらいたいということもできるのではないかと考えています。大阪に通勤している、またはこの駅を中心に生活をしている方たちにできるだけ市立病院の機器を、使えるのであれば使っていただければ非常に有効利用になるのではないかなというのは前から感じていますので、どんどん進めていきたいと思っています。

【小紫会長】 ありがとうございます。先ほどありました総合防災訓練という4年に1回のすごく大きな生駒市の訓練があります。4年に1回非常に大規模に実施するというので、医療関係機関との連携はおっしゃるとおり行いますので、その中で今の課題も検討していくということかなと思っています。

そのほか8ページ目、9ページ目、いかがでしょうか。

城谷会員、お願いします。

【城谷会員】 今のお話にも関係あると思うのですが、やはり位置条件からすると、この救急応需率というのはやっぱりすばらしいと思っています。なかなか95%いくということは難しいのが実感で、マンパワーも難しい中でこれだけ頑張っておられるというのは救急科の先生を褒めたたえなきゃいけないと私は思います。

9ページ目のデータですが、MRIがオープン利用のところでは1,184全件のうちの143件で10%以上を占めていて、CTは3,276件のうち59件というのは、やはりCTの需要が院内的に多くて、なかなか外まで枠がとれないということかどうなのかということについてはいかがですか。

【遠藤副会長】 個人的な感想を言えば、枠がとれないほど稼働しているということではなく、どちらかというと、CTは今、市内の病院でも優秀な機器をかなり入れているところが多いのではないかなということで、市立病院に来てCTを撮るまでもないという判断をしているのかなと一つと思っています。

ただしMRIは、地域の診療所の先生が整形の分野でかなり撮られるようになりま

したので、整形の医師がオーダーしたりするということがあるのではないかなというのを感じているところです。

【城谷会員】 これも甲状腺につながりますので、是非頑張って増やしていただければと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは、8ページ目、9ページ目はよろしいですか。

それでは次に参ります。次が10ページ目、11ページ目、先ほど少し城谷先生からもありました救急医療につきまして、いかがでしょうか。

それでは次に行かせていただきます。

12ページ目の小児医療の充実、災害時医療の確保、予防医療の啓発につきましてご意見、ご質問ございますか。

よろしいですか。それでは13ページ目。市民参加による運営、環境に配慮した運営、そして院内保育所、この3つにつきましていかがでしょうか。

では、佐野会員お願いします。

【佐野会員】 入院・外来患者さまアンケートの中で、医療従事者の方々とか、PTとかOTの方の対応がよかったということを感じて述べられているのですが、私は患者さまが喜ばれるとか、患者さまの家族さんが喜ばれるというのはとても大切だと思うのですが、少し視点を変えられて、職員の方が健康で、心身ともに健康で、職場もよくて、コミュニケーションもすごくとれていて、それが多分できているからこういう評価になっているとは思っています。それをもっとより充実できるように今後も働きかけていかれたらどうかと思いました。

【遠藤副会長】 それは本当に思います。やはり、これからは働き方改革も大事です。少し計画しているのが、看護師中心で、微笑みみたいな、スマイル。笑顔のすてきな人に得点を入れていくみたいなことを院内でやろうかみたいなことを言っていました。そういう取り組みでみんなの心を和ませたり、どうしても厳しい状況も多い現場ですので、やはり時々心をリラックスできるような取り組みをしていきたいなと思っています。

【佐野会員】 それが多分いい環境というか、病院にすごく明るくてすてきな方が多いと、やっぱり患者さまも何か元気になられたりとか、結果的に今後病院に来ることにつながったりするのではないかなと思うのです。

あと、先ほども言いましたけど、待ち時間がやっぱり長いというのも、うまく説明すれば、「こういう重症の方がいらっしゃって、これだけ大変なのです、済みません」ということを丁寧に伝えれば分かる方もいらっしゃるかなと思ったり、対応する方の腕も関係するのかなと思いますので、もしよろしかったら、このよい点を伸ばしていただけたらと思います。

【小紫会長】 是非、看護部長からお願いします。

【事務局(指定管理者)】 先ほど院長から申しました件につきましては、看護師の接遇委員会が、看護師の中で接遇のよかった職員に投票して、院長賞をいただくという

ことで計画をしております。

また、離職率ですけれども、開院当初は非常に高かったです。30%を超えているようなところがございましたが、年々職員も定着をしてきてまして、今現在では10%を切るころまでいっておりますので、この病院に愛着を持ってくださる方が増えてきたのかなと思っております。今後ともまた頑張ってまいります。

【小紫会長】 ありがとうございます。ほか13ページでいかがでしょうか。

それでは、全体的なご意見や各項目で少し言い忘れたと思ったことも含めまして、ご質問とかご意見とかございますか。

よろしいですか。それでは、特に追加のご質問、ご意見がないようでございますので、「令和元年度 生駒市立病院 中間報告書（案）」ということでお示ししておりますが、「中間報告書」ということで皆様ご了解いただくということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、中間報告書を確定させまして、今日いただいたご意見等をあわせまして、次回会議で令和2年度の事業計画（案）をお示しするときの、その作成に当たってのベースとさせていただきたいと思えます。

4 その他

【小紫会長】 事務局から連絡事項等がありますか。

【事務局(市)】

本日はたくさんのご意見をいただきありがとうございます。来年の3月に次回会議を開催させていただこうと思っております。そのときには、先ほど市長から申しましたとおり、本日ご意見いただいた中間報告を確定したものと、前回の平成30年度の実施状況調査報告書、この2つの課題・評価を盛り込んだ形で令和2年度の生駒市立病院の事業計画（案）お示しさせていただきますので、たくさんのご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

5 閉会

【小紫市長】 ありがとうございます。

会員の皆様からご質問、ご意見はよろしいですか。

それではないようでございますので、第2回目の会議を終了させていただきます。

本日は大変お忙しい中、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

— 了 —